

2. 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

菊池川流域内には、東部に鞍岳（1,118m）を含む阿蘇・くじゅう国立公園が、西部の一部に小岱岳（473m）を含む小岱山県立自然公園が、南部の一部に金峰山県立自然公園が位置し、菊池渓谷や前川水源等の豊かな自然環境を有している。

上流域の菊池渓谷の自然林は、菊池市立門付近より水源に至る渓谷の標高 500～1,000m、面積 500ha の地域に分布し、ケヤキ林、モミ林、ブナ林等により構成され、数少ない原生の自然が存在している。

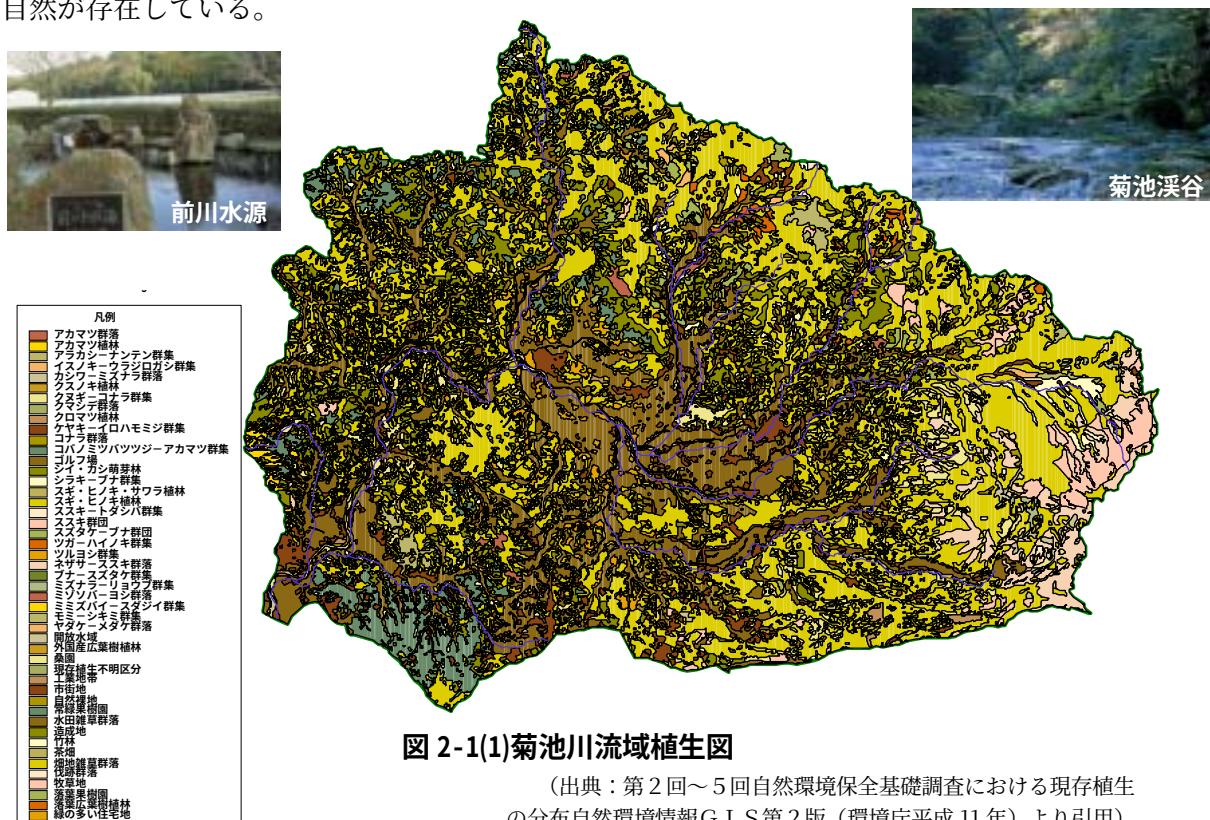


図 2-1(1)菊池川流域植生図

（出典：第 2 回～5 回自然環境保全基礎調査における現存植生の分布自然環境情報GIS第 2 版（環境庁平成 11 年）より引用）



（出典：オリジナル（熊本県環境特性情報データベース（初版）熊本北部熊本県環境生活部環境対策課を基に作成））

図 2-2(2)自然公園位置図

2-2 河川の自然環境

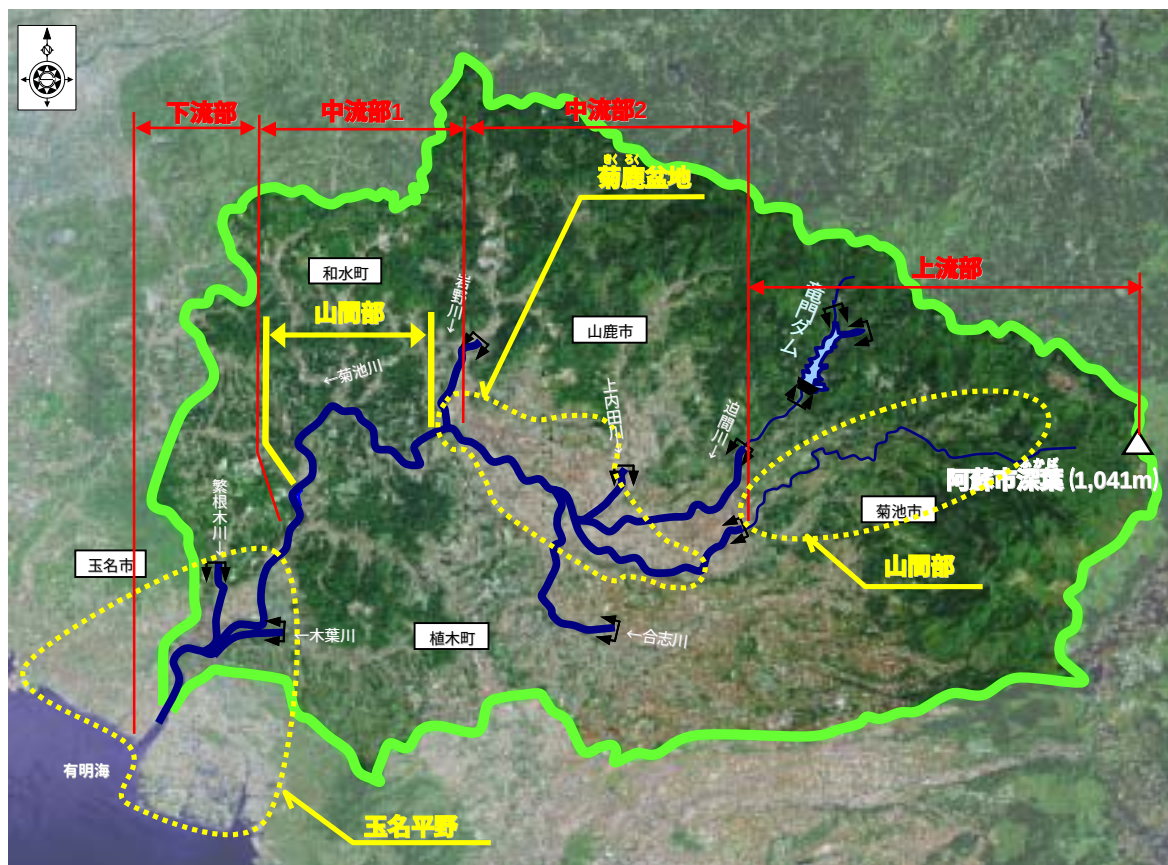
菊池川は、木庭橋から上流の「上流部」、木庭橋から白石頭首工下流までの「中流部」、白石頭首工下流から河口までの「下流部」に大別される。更に中流域については、木庭橋から支川岩野川合流点までの「中流 2」、岩野川合流点から白石頭首工下流までの「中流 1」に細別される。

なお、支川の河川区分については、木葉川及び繁根本川は「下流部」に、岩野川は「中流 1」に、合志川、迫間川、上内田川は「中流 2」に属する。

表 2-1 河川区分

河川区分	区間	写真	特徴
下流部	河口 0k000 ～ 白石頭首工下流 14k000		玉名平野を緩やかに蛇行しながら貫流している
中流部 (中流 1)	白石頭首工下流 14k000 ～ 岩野川合流点 30k600	 	・山間部を緩やかに流下する。 ・山付き区間が多く、河畔林などの樹林環境を多く有する。
中流部 (中流 2)	岩野川合流点 30k600 ～ 木庭橋 51k800		菊鹿盆地を急勾配で流下する。
上流部	木庭橋 51k800 ～ 菊池川水源		・背後地に常緑広葉樹や落葉広葉樹で構成される山付き林が広がる山間部である。

(写真出典：菊池川河川事務所)



(出典：菊池川河川事務所提供(一部加筆))

図 2-2(1) 菊池川水系特性分割図

(1) 上流部(木庭橋 51k800～水源)

菊池川の上流部のうち、源流部は阿蘇くじゅう国立公園に指定されており、菊池溪谷にはケヤキ林、モミ林、ブナ林といった自然林が分布している。溪流にはヤマメやカジカガエル、カワガラス等が生息している。



①上流端付近



②菊池市木庭橋付近



③菊池溪谷



④ヤマメ
環境省：準絶滅危惧



⑤カジカガエル
熊本県：準絶滅危惧



⑥カワガラス

(出典：①～③菊池川河川事務所、④～⑥(株)建設技術研究所)

(2) 中流 2 (岩野川合流点 30k600～木庭橋 51k800)

中流 2 は、菊鹿盆地を流下しており、山鹿大堰や農業用の堰による湛水域が点在し、河川沿川には水田が広がっている。

山鹿大堰から分田橋の区間は、「菊池川のチスジノリ発生地」として国の天然記念物に指定されており、礫床の流水区間にチスジノリが生育している。

水際にはツルヨシ群落が多く分布しており、周辺の緩やかな流れにはタナゴ類やオヤニラミ、イシガイ等が生息している。またツルヨシ群落にはオオヨシキリやタマシギ、バン等の鳥類が生息している。

高水敷のオギ群落にはカワラヒワやアカネズミ、河岸の竹林にはサギ類が生息している。

改修等に伴い、タナゴ類等の生息場として重要な河川と水田等の連続性が失われつつある。



① 菊池市橋田堰付近



② 36k800～38k600



③ チスジノリ

山鹿大堰～分田橋区間の発生地が国指定天然記念物



④ ツルヨシ群落



⑤ オヤニラミ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類
熊本県：絶滅危惧Ⅱ類

(出典：①～⑤ 菊池川河川事務所)

(3) 中流 1 (白石頭首工下流 14k000～岩野川合流点 30k600)

中流 1 は、山付き部を流下しており、河畔林や山付き林といった樹林地が多く分布している。また白石頭首工による湛水域が広がり、その上流には瀬と淵が連続している。

水域では、瀬を産卵場として利用するアユ、オイカワや、淵を生息場として利用するイトモロコ、カマツカ等が生息している。また淵はカモ類の集団越冬地として利用されている。

樹林地は竹林やスギ・ヒノキ植林、常緑広葉樹で構成されており、タヌキやアカネズミ、カワセミ等が生息している他、サギ類の集団ねぐらとしても利用されている。



① 和水町高野地区付近



② 20k400～21k600



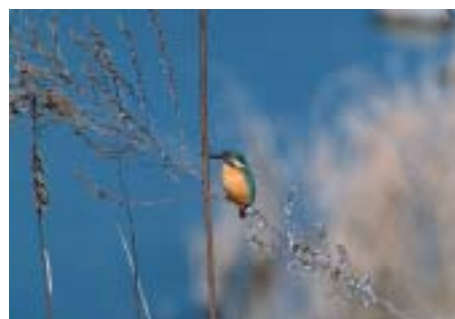
③ 瀬 (アユの産卵場)



④ アユ



⑤ オイカワ



⑥ カワセミ

(出典：①～③、⑤、⑥菊池川河川事務所、④(株)建設技術研究所)

(4) 下流部 (河口 0k000～白石頭首工下流 14k000)

下流部は、玉名平野を緩やかに蛇行しながら貫流している。感潮区間にあたり、河口には干潟が広がる。

干潟にはムツゴロウやハラグクレチゴガニといった有明海に特有な生物が生息し、甲殻類を捕食するズグロカモメやキアシシギ等の鳥類の採餌場となっている。また河口にはタケノコカワニナ等の重要な貝類が生息していることから、環境省の「日本の重要湿地 500」に指定されている。

砂浜にはヤマトシジミが生息しているが、近年河床低下による砂浜の減少、ガタ土化が進行しヤマトシジミの個体数が減少しているため、砂浜の再生を目指した自然再生事業を展開している。



①玉名市高瀬大橋付近



②河口域



③干潟



④ムツゴロウ

環境省：絶滅危惧ⅠA類

熊本県：絶滅危惧Ⅱ類



⑤ヤマトシジミ

環境省：準絶滅危惧



⑥ハラグクレチゴガニ

環境省：準絶滅危惧

熊本県：準絶滅危惧

(出典：①②菊池川河川事務所、③～⑥(株)建設技術研究所)

(5) 菊池川における重要な種

河川水辺の国勢調査の調査結果及び多自然型川づくり追跡調査結果を基に、確認された種のうち、環境省レッドリスト、熊本県の保護上重要な野生生物リストなどにおける記載種を重要な種として抽出した。

重要な種の選定基準の出典は、以下に示すとおりである。

重要な種の選定根拠

- ①絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律
- ②文化財保護法 … 天然記念物〈天然〉，特別天然記念物〈特天〉
- ③報道発表資料 鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて報道発表資料 哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて … 絶滅〈EX〉野生絶滅〈EW〉絶滅危惧Ⅰ類〈CR+EN〉絶滅危惧ⅠA類〈CR〉絶滅危惧ⅠB類〈EN〉絶滅危惧Ⅱ類〈VU〉準絶滅危惧〈NT〉情報不足〈DD〉付属資料「絶滅のおそれのある地域個体群」〈LP〉
- ④熊本県の保護上重要な野生生物リストーレッドリストくまもと 2004ー … 絶滅〈EX〉野生絶滅〈EW〉絶滅危惧Ⅰ類〈CR+EN〉絶滅危惧ⅠA類〈CR〉絶滅危惧ⅠB類〈EN〉絶滅危惧Ⅱ類〈VU〉準絶滅危惧〈NT〉情報不足〈DD〉付属資料「絶滅のおそれのある地域個体群」〈LP〉付属資料「要注目種」〈CS〉
- ⑤第2，3回緑の国勢調査 … 重要

表 菊池川水系で確認された重要な種の一覧

生物	No.	科名	種名	選定基準				
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
魚類	1	ヤツメウナギ	スナヤツメ			DD	NT	
	2	ウナギ	ウナギ			DD		
	3	カタクチイワシ	エツ			VU	NT	
	4	コイ	ゲンゴロウフナ			EN		
	5		ヤリタナゴ			NT	NT	
	6		アブラボテ			NT	NT	
	7		カネヒラ				NT	
	8		セボシタビラ			CR	NT	
	9		カゼトゲタナゴ			EN	NT	
	10		ハス			VU		
	11		カワヒガイ			NT	NT	
	12		ツチアキ			VU		
	13	ドジョウ	ヤマトシマドジョウ			VU		
	14		ヤマトシマドジョウ小型種点小型			EN	CS	
	15	ギギ	アリアケギバチ			NT	VU	
	16	シラウオ	アリアケシラウオ			CR	CR	
	17	サケ	ヤマメ			NT		
	18	メダカ	メダカ			VU		
	19	サヨリ	クルマサヨリ			NT		
	20	ヨウジウオ	ガンデンイシヨウジ				CS	
	21	スズキ	オヤニラミ			VU	VU	
	22	ハゼ	カウアナゴ				NT	
	23		タビラクチ			EN	NT	
	24		ムツゴロウ			EN	VU	
	25		トビハゼ			NT		
	26		ウラスボ			VU	CS	
	27		チウラスボ			EN	CS	
	28		ヒリンコ				CS	
	29		ハゼクチ			VU		
	30		アジシロハゼ				CS	
	31		マサゴハゼ			VU	NT	
	32		スジハゼ				CS	
	33		ショウキハゼ			NT	CS	
底生動物	1	アマオブネガイ	カノコガイ			VU	DD	
	2		ヒロクチカノコガイ			VU		
	3	トウガタカワニナ	タケノコカワニナ			VU	EN	
	4	オカミミガイ	ナラビオカミミガイ			VU	EN	
	5	モノアラガイ	モノアラガイ			NT		
	6	ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ			DD		
	7		ヒラマキガイモドキ			NT		
	8	シジミ	ヤマトシジミ			NT		
	9		マシジミ			NT		
	10	クロシフォニ	ミドリビル			DD		
	11		イボビル			DD		
	12	テナガエビ	テナガエビ				DD	
	13	コブシガニ	マメコブシガニ				NT	
	14	イワガニ	ベンケイガニ				NT	
	15	スナガニ	アリアケガニ				EN	
	16		アリアケモドキ				VU	
	17		ハラタクレチゴガニ			NT	NT	
	18	サナエトンボ	キイロサナエ				DD	
	19		ホンサナエ				CR+EN	
	20		アオサナエ				CS	
	21		タベサナエ				NT	
	22	ゲンゴロウ	キベリマメゲンゴロウ				CR+EN	
	23	ガムシ	シジミガムシ				CR+EN	
植物	1	チスジノリ	チスジノリ※	天然		VU		
	2	アカウキクサ	アカウキクサ			VU	VU	
	3		オオアカウキクサ			VU	NT	
	4	ヤナギ	イヌヨリヤナギ				VU	
	5	アカサ	ホソバノハマアカサ				NT	
	6		ヒロハマツナ			VU	DD	
	7	アブラナ	コイヌガラシ			NT	VU	
	8	ユキノシタ	タコノアシ			NT	EN	
	9	シソ	メハジキ				NT	
	10		ミソコウシュ			NT	NT	
	11	ゴマノハクサ	カワヂシャ			NT	NT	
	12	キク	フクド			NT	NT	
	13		オグルマ				NT	
	14		オナモミ			VU		
	15	イネ	セイタカヨシ				NT	
	16	カヤツリグサ	シオクク				NT	
鳥類	1	サギ	ヨシユイ			NT	NT	
	2		チュウサギ			NT	NT	
	3	トキ	クロツラヘラサギ			CR	EN	
	4	カモ	ツクシガモ			EN	VU	
	5		オシドリ			DD		
	6	タカ	ミサゴ			NT	NT	
	7		オオタカ	国内		NT	NT	
	8		ハイタカ			NT		
	9		ノスリ				LP	
	10	ハヤブサ	ハヤブサ	国内		VU	NT	
	11	クイナ	ヒクイナ			VU		
	12	タマシギ	タマシギ				NT	
	13	シギ	ホウロクシギ			VU	NT	
	14	カモメ	ズクロカモメ			VU	NT	
	15		ヨアジサシ			VU	VU	
	16	フクロウ	フクロウ				NT	
	17	セキレイ	ピンズイ				LP	
	18	ホオジロ	ノジコ			NT		
両・爬・哺	1	イモリ	イモリ				NT	
	2	ヒキガエル	ニホンヒキガエル				NT	
	3	アカガエル	ニホンアカガエル				NT	
	4		トノサマガエル				NT	
	5	アオガエル	カジカガエル				NT	
	6	イシガメ	イシガメ				NT	
	7	カササギ	カササギ				NT	
	8	ニホヒキガエル	ニホヒキガエル				DD	
陸上昆虫類	1	コオロギ	オオコオロギ				DD	
	2	ヨコバイ	スナヨコバイ			NT		
	3	ツチカメムシ	シロヘリツチカメムシ			NT	NT	
	4	シロチョウ	ツマクロキチョウ			VU		
	5		シジミガムシ				CR+EN	
	6	ガムシ	シジミガムシ				CR+EN	

※：チスジノリの天然記念物の指定は生育箇所の指定である

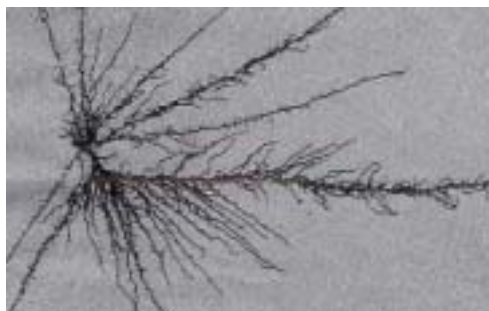
また、菊池川流域における国指定の天然記念物（特別天然記念物含む）としては、次の3物件あり、県指定の天然記念物は存在しない。

表 2-3 菊池川流域の国及び県指定天然記念物

No.	名称	指定区分	種別	指定年月日	所在地
1	おおのしものおおそてつ 大野下の大ソテツ	国	天然記念物 (植物)	昭和9年12月28日	玉名市岱明町大野下
2	あいらのあいらとびかずら 相良のアイラトビカズラ	国	天然記念物 (植物)	昭和27年3月29日	山鹿市菊鹿町相良
3	きくちがわのちすじのりはっせいち 菊池川のチスジノリ発生地	国	天然記念物 (植物)	昭和34年10月10日	山鹿市方保田

(出典：「くまもとの文化」熊本県教育庁文化課ホームページ)

【菊池川のチスジノリ発生地】



菊池川の代表的な水中植生として、チスジノリがある。チスジノリは菊池川本川の岩盤や護岸等の基質に付着しているものが確認されており、菊池川の山鹿大橋～分田橋（32.6～37.0km）区間のチスジノリは、「菊池川のチスジノリ発生地」として国の天然記念物に指定されている。
(出典：菊池川河川事務所)

【相良のアイラトビカズラ】



マメ科トビカズラ属に属する熱帯性常緑つる性植物の巨木。幹の周囲は50センチを越し、5月上旬に芳香のある紫黒色の大きな蝶形の花を房状に十数個集まって咲かせ、豆果の長さは60センチにも達する。日本に生育しているのは当木だけであり、分布北限である。
(出典：熊本県教育委員会)

(6) 菊池川の注目すべき種

菊池川における注目すべき種については、希少性、良好性、生態系、多様性の観点から抽出を行った。抽出フローは以下に示すとおりである。

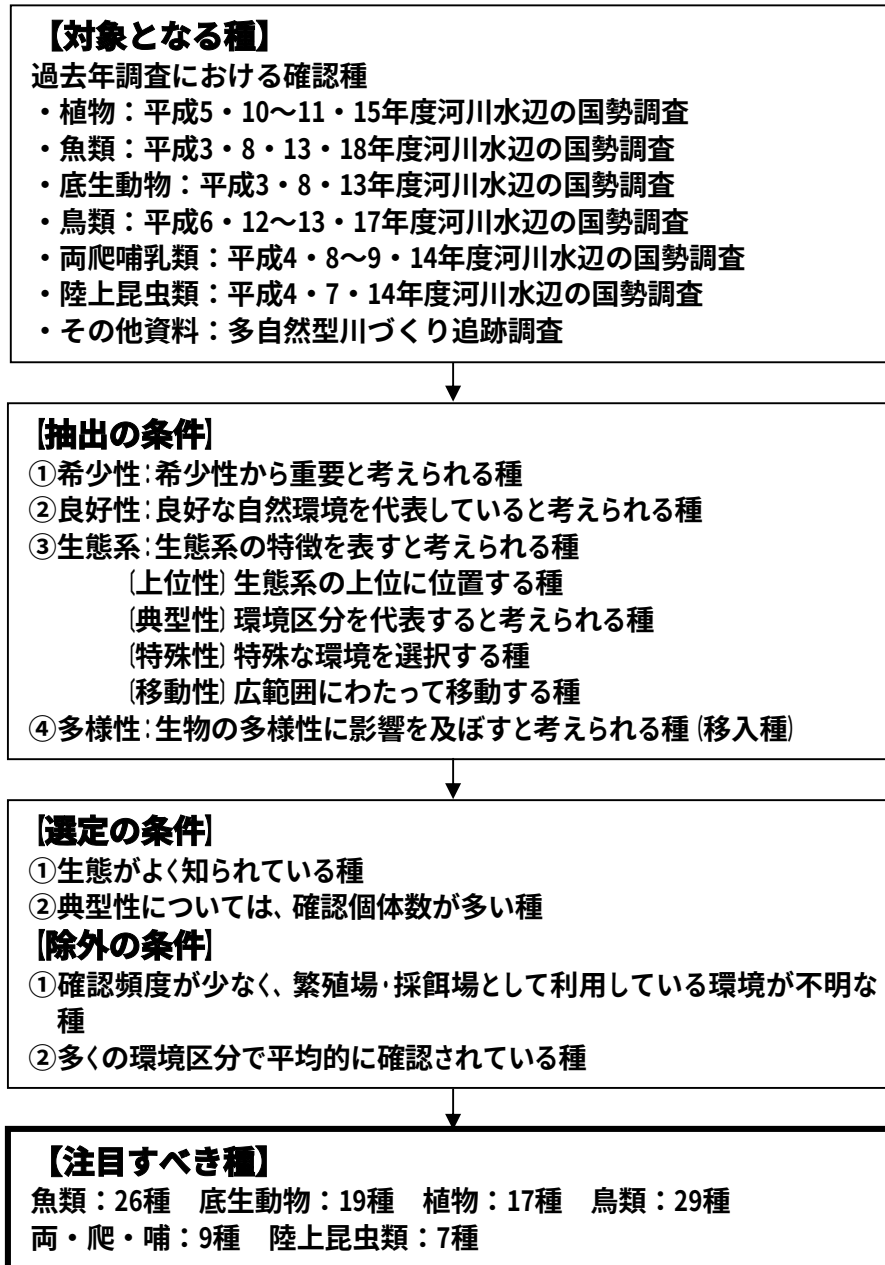


図 注目すべき種の抽出フロー図

表 菊池川における注目すべき種

区分		環境区分		植物	鳥類	両・爬・哺	陸上昆虫類	魚類	底生動物	
下流部	水域	水域	—	—	コアジサシ ミサゴ	—	—	エツ ヒイラギ（典） マハゼ（典）	ヒロクチカノコガイ タケノコカウニナ	
		干潟	ヒロハマツナ フクド	ズグロカモメ ツクシガモ シロチドリ（典） キアシシギ（典）	—	—	ムツゴロウ タビラクチ トビハゼ	ハラダクレチゴガニ ヤマトシジミ ヤマトオサガニ（典） アリアケモドキ（典）		
	移行帯	水際植生	タコノアシ シオクグ ヨシ群落（典）	ホオジロ（典）	—	—	—	アシハラガニ（典）		
	陸域	砂州	—	コアジサシ	—	—	—	—		
		河畔林・耕作地	竹林（典） 落葉広葉樹林（典）	チュウサギ スズメ（典） ムクドリ（典）	カヤネズミ ヌマガエル（典） ニホンアカガエル（典） コウベモグラ（典） アカネズミ（典） ノウサギ（典） タヌキ（典）	イチモンジセセリ（典）	—	—		
中流部	中流 1	水域	瀬	—	—	—	—	オイカワ（典） アユ（移） トウヨシノボリ（典）	アカマダラカゲロウ（典） コガタシマトビケラ（典）	
			淵	—	カイツブリ（典） ヒドリガモ（典） カワセミ（典）	—	—	イトモロコ（典） カマツカ（典） カワムツ（典）	—	
		移行帯	水際植生	ミゾコウジュ セイタカヨシ カワチシャ（岩野川） ツルヨシ群落（典） アラシノボリ（特外）	オオヨシキリ（典） カイツブリ（典）	ヌマガエル（典）	アオモンイトトンボ（典） ヒメガムシ（典）	ムギツク（典） モツゴ（典）	モノアラガイ ミナミヌマエビ（典）	
		陸域	草地（高水敷）	オギ群落（典）	ビンズイ（岩野川） カワラヒワ（典）	カヤネズミ（岩野川） アカネズミ（典）	イチモンジセセリ（典）	—	—	
			河畔林・山付き林	竹林（典） スギ・ヒノキ植林（典） 常緑広葉樹林（典）	チュウサギ コサギ（典） カワセミ（典） キジバト（典） シメ（典）	アカネズミ（典） タヌキ（典）	ベニカミキリ（典） ゴイシシジミ（典）	—	—	
	中流 2	水域	瀬	チスジノリ	—	—	—	オイカワ（典） アユ（移）	ウルマーシマトビケラ（典）	
			淵	—	バン（典）	—	—	オヤニラミ イトモロコ（典） ドンコ（典） タカハヤ（典） ナマズ（典）	—	
		移行帯	水際植生	カワチシャ セイタカヨシ ミゾコウジュ（合志川、 迫間川） ツルヨシ群落（典） アラシノボリ（特外）	タマシギ ヨシゴイ（迫間川） オオヨシキリ（典） バン（典）	ヌマガエル（典） ウシガエル（特外）	アオモンイトトンボ（典） ハグロトンボ（典） ヒメガムシ（典）	オヤニラミ メダカ スジシマトショウ小型種 点小型（繁根木川） タナゴ類（典） ムギツク（典）	モノアラガイ イシガイ（典） ミナミヌマエビ（典）	
		陸域	草地（高水敷） 耕作地（堤内地）	オギ群落（典）	ビンズイ（上内田川） カワラヒワ（典）	カヤネズミ アカネズミ（典）	イチモンジセセリ（典）	《水田・水路》 メダカ スジシマトショウ小型種 点小型（繁根木川） タナゴ類（典） ナマズ（典）	—	
			河畔林	竹林（典）	アオサギ（典）	アカネズミ（典） タヌキ（典）	ベニカミキリ（典） ゴイシシジミ（典）	—	—	
			上流部	水域	瀬・淵	—	—	—	ミヤマカワトンボ（典）	ヤマメ アユ（典）
		陸域	礫河原	—	カワガラス（典）	カジカガエル	—	—	—	—
			河畔林	常緑広葉樹林（典） 落葉広葉樹林（典）	オオルリ（典）	—	—	—	—	

赤字：重要種

上：上位性、典：典型性、移：移動性、特：特殊性、特外：特定外来生物

※重要種について、支川での確認種については（ ）内に河川名を記した。

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

2-3-1 観光・景勝地

菊池川流域は豊かな自然環境を有しており、周辺の山々が調和した自然景観や河川景観は観光資源としても活かされている。流域の一部は、阿蘇・くじゅう国立公園、小岱山県立自然公園、金峰山県立自然公園に指定されている。

上流域の源流付近に菊池溪谷や「名水百選」に選ばれている湧き水群や溪谷等の景勝地が点在する他、中流域には四季を通して行楽に訪れる人々で賑わいをみせている。また、「菊池温泉」、「山鹿温泉」、「玉名温泉」、「植木温泉」等をはじめとして、各地に温泉地が点在している。

表 2-6 菊池川流域の主な観光資源

番号	名称	市町村
1	菊池溪谷	菊池市
2	竜門ダム	
3	菊池温泉	
4	孔子公園	
5	メロンドーム	
6	菊池神社	
7	俵ころがし	玉名市
8	玉名温泉	
9	裏川の花菖蒲（裏川公園）	
10	矢谷溪谷	山鹿市
11	八千代座	
12	山鹿温泉	
13	平山温泉	
14	菊鹿温泉	
15	熊入温泉	
16	チブサン古墳	
17	不動岩	
18	一本松公園（石のかざぐるま）	
19	水辺プラザかもと	
20	田原坂公園（田原坂資料館）	植木町
21	植木温泉	
22	宮原温泉	南関町
23	大津山自然公園	
24	菊水ロマン館	和水町
25	肥後民家村	
26	三加和温泉	
27	肥後古代の森	
28	江田船山古墳	
29	農業公園カントリーパーク	合志市

（出典：菊池川 2005 事業概要 菊池川河川事務所）



図 2-6 観光資源位置図



【菊池渓谷】 ー菊池市ー
四季折々の変化を見せる菊池渓谷は熊本県内外から毎年多くの観光客を集めている。



【竜門ダム】 ー菊池市ー
迫間川上流に平成 14 年に完成した多目的ダム。ダム湖のまわりには公園が整備されており、スポーツや散策、釣りなどを楽しむことができる。



【菊池温泉】 ー菊池市ー
菊池温泉には古くから「白龍のお告げ」という伝説が伝えられており、別名「美肌の湯」と呼ばれている。



【道の駅 七城メロンドーム】 ー菊池市ー
メロン形の屋根が目印の物産館。糖度 14 以上の厳選したメロンや米、花、野菜などを販売している。

 (写真出典：菊池川河川事務所) 【山鹿温泉】 一山鹿市— 平安時代の文献「和名抄」にも温泉郷として登場している、1000 年以上の歴史がある温泉地。	 (写真出典：山鹿市 HP) 【八千代座】 一山鹿市— 明治 43 年に建築され、国指定重要文化財に指定されている。当時を想わせる屋内装飾が施されており、歌舞伎やコンサートが催されている。
 (写真出典：菊池川河川事務所) 【水辺プラザかもと】 一山鹿市— 平成 11 年にオープンした複合温泉施設。来場者数 600 万人を超え、施設横の川辺では水遊びやカヌー遊びができる。	 (出典：熊本県立装飾古墳館図録) 【チブサン古墳】 一山鹿市— 国指定史跡に指定され、1,500 年前の古代人が描いたとされる壁画が鮮やかに残っている。
 (写真出典：菊池川河川事務所) 【江田船山古墳】 一山鹿市— 全国的に見て最も重要な古代遺跡です。その副葬品などから、この時代に中国大陆や朝鮮半島との交流があったことがわかる。	 (写真出典：菊池川河川事務所) 【玉名温泉】 一玉名市— 玉名温泉はかつて立願寺温泉と呼ばれ、1300 年もの間こんこんと湧き続けている温泉地。
 (写真出典：菊池川河川事務所) 【裏川公園】 一玉名市— 毎年 6 月にハナショウブ祭りが開催され、平成 17 年 4 月には商家を改修した「高瀬蔵」も併せ、玉名市の重要な観光資源となっている。	 (写真出典：菊池川河川事務所) 【菊水ロマン館】 一和水市— レストラン、物産館、温泉が一つになった複合施設。周辺には肥後民家村やカヌー館などが位置している。

【菊池川の水運】

菊池川の水運は、菊鹿盆地や玉名平野で収穫される米を菊池川の水運を利用し、船着場の高瀬まで運んだ後、大阪や朝鮮へと輸出を行っていた。近世まで米の積み出しと木材のいかだ流しによって栄えていた菊池川流域であったが、交通機関の発達によって逐次衰微し、大正 10 年の鹿本鉄道線の開通後著しく衰退し、昭和初年には渡し船にその痕跡の一部を残すのみとなった。



(出典：(左図) 菊池川流域見聞録 (右図) 山鹿市井口氏提供、参考文献：五十年史 菊池川河川事務所)

図 2-4 高瀬船着場跡 (左図) と木材のいかだ流しの様子 (右図)

2-3-2 文化財

菊池川流域には歴史的に重要な文化財や史跡が多く、国指定で 21 件、県指定で 16 件の文化財がある。表 2-4 に文化財一覧を示す。

表 2-4 菊池川流域の国及び県指定文化財

No.	名称	指定区分	種別	指定年月日	所在地
1	たなかじょうあと 田中城跡	国	史跡(遺跡)	平成14年3月19日	和水町大字和仁字田中293-3
2	しほんぼくしよきくちじんじやもんじよ 紙本墨書菊池神社文書(四十一通)	国	書跡	昭和16年7月3日	菊池市隅府1257
3	けんぼんちやくしよくてんきくちよしかずぞう 絹本着色伝菊池能運像	国	絵画	大正1年9月3日	菊池市隅府1275
4	ふたごやませっせいさいせい 二子山石器製作遺跡	国	史跡(遺跡)	昭和47年3月23日	合志市野々島
5	きくちのまつばやし 菊池の松囃子	国	無形の民俗文化財	平成10年12月16日	菊池市隅府
6	だいほうこふん 大坊古墳	国	史跡(遺跡)	昭和52年2月17日	玉名市玉名出口
7	えいあんじひがしこふん・えいあんじにしこふん 永安寺東古墳・永安寺西古墳	国	史跡(遺跡)	平成4年12月15日	玉名市玉名永安寺
8	こうふくじてんわふしよじしょう 広福寺伝衣付囃状(四通) 附二十五条袈裟一領	国	古文書	昭和50年6月12日	玉名市石貫1379
9	だいちぼくせきとうこくみょうこうじよのけ 大智墨蹟東谷明光除夜偈	国	書跡	昭和50年6月12日	玉名市石貫1379
10	しほんぼくしよこうふくじもんじよ 紙本墨書広福寺文書(百八通)	国	書跡	昭和14年5月27日	玉名市石貫1379
11	きゅうさかいけじゅうたく 旧境家住宅	国	建造物	昭和48年2月23日	和水町瀬川
12	えたあなかのんこふん 江田穴観音古墳	国	史跡(遺跡)	昭和19年11月13日	和水町江田4400
13	えたふなやまこふん・ふつかほうすこふん・こくんぞうつかこふん 江田船山古墳・附塚坊主古墳・虚空蔵塚古墳	国	史跡(遺跡)	昭和26年6月9日	和水町江田370瀬川452江田291
14	いしぬきあなかのんよこあな 石貫穴観音横穴	国	史跡(遺跡)	大正10年3月3日	玉名市石貫
15	いしぬきぎのよこあなぐん 石貫ナギノ横穴群	国	史跡(遺跡)	大正10年3月3日	玉名市石貫
16	かとうだひがしほるいせき 方保田東原遺跡	国	史跡(遺跡)	昭和60年2月19日	山鹿市大字方保田東原
17	やちよざ つけたりどべい・むなふだ・ししくち・ほうのうへんがく 八千代座 附土堀・棟札・獅子口・奉納扁額	国	建造物	昭和63年12月19日	山鹿市山鹿1499・1502・1515
18	べんけいがあなこふん 弁慶ヶ穴古墳	国	史跡(遺跡)	昭和31年12月28日	山鹿市熊入町
19	いわほるこふんぐん 岩原古墳群	国	史跡(遺跡)	昭和33年1月29日	山鹿市鹿央町岩原
20	ちぶさんこふん・おぶさんこふん チブサン古墳・オブサン古墳	国	史跡(遺跡)	大正11年10月12日	山鹿市城
21	なべたよこあな 鍋田横穴	国	史跡(遺跡)	大正11年10月12日	山鹿市鍋田
22	ありあけかいきゅうかんたくしせつぐん 有明海旧干拓施設群	県	建造物	平成18年1月11日	玉名市大浜町字末広開地先、玉名市横島町横島字神崎尻地先
23	らいこうじのこりんとう 来光寺の五輪塔	県	建造物	平成16年4月19日	玉名郡南関町大字豊永4324番地
24	ばいりんでんまんぐうやぶさめ 梅林天満宮流鏑馬	県	無形の民俗文化財	平成16年4月19日	玉名市梅林地区
25	たてかどばし 立門橋	県	建造物	平成6年3月16日	菊池市重味
26	ながやまばし 永山橋	県	建造物	平成6年3月16日	菊池市原
27	てらおののほうきょういんとう 寺小野の宝篋印塔	県	建造物	昭和40年2月25日	菊池市小野2443-1
28	えんつうじのいしもん 円通寺の石門	県	建造物	昭和63年3月15日	菊池市旭志井利105-1・96-1
29	えとうけじゅうたく 江藤家住宅	県	建造物	平成3年2月13日	大津町陣内1652
30	たかせめがねばし 高瀬眼鏡橋	県	建造物	昭和54年1月8日	玉名市高瀬下町
31	せいあんじのこりんのとうぐんつけたりいたびぐんなど 西安寺の五輪塔群附板碑群等	県	建造物	昭和47年6月27日	玉東町西安寺
32	くまのうほうとう 熊野宮宝塔	県	建造物	昭和49年3月23日	和水町江田神屋敷
33	かわにしほほうきょういんとう 川西の宝篋印塔	県	建造物	平成9年10月20日	山鹿市菊鹿町下内田1787
34	りゅうちゅうへいのほうとう 笠忠平の宝塔	県	建造物	平成9年10月20日	山鹿市菊鹿町相良字西宮坂1005-3
35	ふなそこのこりんのとうつきいたひにき 船底五輪塔附板碑二基	県	建造物	昭和39年3月10日	植木町豊岡字船底956
36	えんだいじのせきぞうかざとうば 円台寺の石造笠塔婆	県	建造物	昭和40年2月25日	植木町円台寺
37	ゆまちばし 湯町橋	県	建造物	昭和55年7月4日	山鹿市大字杉1607日輪寺境内

(出典：「くまもとの文化」熊本県教育庁文化課ホームページ)



国指定の文化財			
No.	種別	名称	所在地
1	重文	大智墨蹟東谷明光除夜偈	玉名市
2	"	紙本墨書広福寺文書(百八通)	"
3	"	広福寺伝衣付囃状(四通) 附二十五条袈裟一領	"
4	"	八千代座 附土塀・棟札・獅子口・奉納扁額	山鹿市
5	"	紙本墨書菊池神社文書(四十一通)	菊池市
6	"	絹本着色伝菊池能運像	"
7	"	旧境家住宅	菊池町
8	重無民	菊池の松囃子	菊池市
9	史	石貫ナギノ横穴群	玉名市
10	"	石貫穴観音横穴	"
11	"	永安寺東古墳・永安寺西古墳	"
12	"	大坊古墳	"
13	"	鍋田横穴	山鹿市
14	"	チブサン古墳・オブサン古墳	"
15	"	井慶ケ穴古墳	"
16	"	方保田東原道跡	"
17	"	田中城跡	和水町
18	"	江田船山古墳・附塚坊主古墳・虚空蔵塚古墳	"
19	"	江田穴観音古墳	"
20	"	岩原古墳群	山鹿市
21	"	二子山石器製作遺跡	合志市
22	天	菊池川のチスジノリ発生地	山鹿市
23	"	相良のアイラトビカズラ	"

注) 重文:重要文化財 重無民:重要無形民俗文化財
史:史跡 天:天然記念物

(出典:「くまもとの文化」熊本県教育庁文化課ホームページ)

図 2-4 文化財位置図

2-3-3 文化と歴史

(1) 旧石器時代

氷河期が繰り返し訪れるなか、日本列島に住み始めた人々は、石器で動物を狩って生活していた。菊池川のほとりでも当時の遺跡や石器が数多く確認されている。

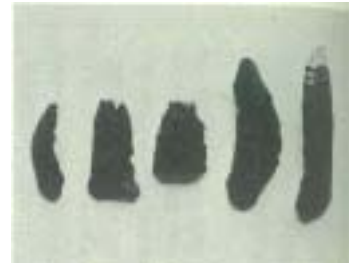


出典：（熊本県遺跡地図（平成10年3月）をもとに作成）

旧石器時代遺跡分布図



長野の尖頭器（菊池市龍門）



発見された石器

（出典：菊池市史）

(2) 縄文時代

氷河期が終わり気候が温暖になるなか、人々は竪穴式住居に住み、土器を作り、狩りや漁や植物を採取して生活していた。菊池川流域でも貝塚、土器などが多数発見されている。



（出典：熊本県遺跡地図(平成10年3月)をもとに作成）

主要貝塚の分布



三ツ田式土器（若園町）
菊池川と合流する所に築かれた古墳に、三ツ田式土器、縄文時代後期の代表的遺物、多量の土器と竪穴式住居が発見された。



（写真出典：菊池市歴史民俗資料館）

若園貝塚（和水町）

(3) 弥生時代

大陸から稲作農業と金属器が伝えられた。稲作の本格化により人々は一定の土地に定住し「ムラ」が形成されていった。

山鹿市の方保田東原遺跡は、菊池川とその支流の方保田川に挟まれた台地上にひろがる弥生時代後期から古墳時代前期に繁栄した大集落遺跡である。これまでの調査の結果、幅 8m の大溝や、多数の溝や住居跡、土器や鉄器生産跡の可能性のある遺構などが見つかっている。また、全国で唯一の石包丁形鉄器や、特殊な祭器である巴形銅器をはじめとする数多くの青銅製品や鉄製品が出土しており、この遺跡の国力の強さがうかがい知れる。このほか、山陰や山陽など西日本各地から持ち込まれた土器なども多数出土しており、交易によって繁栄していた遺跡ということが分かってきた。このような発見から、弥生時代の中九州を代表する重要な遺跡と評価され、昭和 60 年 2 月に国の史跡として指定を受けた。



(出典：山鹿市出土文化財管理センターパンフレットより)

(4) 古墳時代

大和政権が日本の統一政権を確立していくなか、各地の豪族たちも力の象徴として古墳を残していった。

舟形石棺

菊池川流域には、阿蘇溶結凝灰岩で造られた舟形石棺が多数存在する。また、近畿地方の古墳からも菊池川流域産の舟形石棺が確認されている。



(写真出典：熊本県立装飾古墳館図録)

舟形石棺

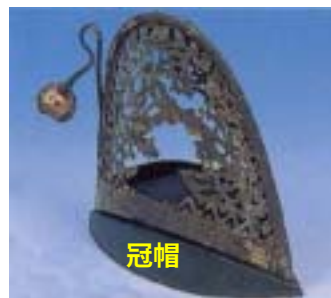
江田船山古墳（和水町）

全国的に見て最も重要な古代遺跡である。その副葬品などから、この時代に中国大陸や朝鮮半島との交流があったことがわかる。



(写真出典：菊池川河川事務所)

江田船山古墳



冠帽



金製耳飾

(写真中、右：和水町教育委員会提供)

江田船山古墳からの出土品

装飾古墳

装飾古墳とは、墓室の壁や石棺、横穴入り口の外壁などを彩色画・浮き彫りなどで装飾した古墳のことで、菊池川流域には全国の約 20%もの装飾古墳が確認されている。装飾古墳の図柄で特に多いものは、人と馬と舟である。



チブサン古墳(山鹿市)



鍋田横穴群27号基(山鹿市)



弁慶ヶ穴古墳(山鹿市)



装飾古墳に描かれていた
舟のデザイン

(出典：熊本県立装飾古墳館図録)

(5) 飛鳥・奈良・平安時代

中国より伝わった仏教は国内に広まり、人々の生活や政治に大きな力を持つようになった。また、国を治めるための法律やしゅくみが整えられていった。政治の中心は皇族から貴族、そして武士に移っていった。

鞠智城（山鹿市）

663 年、白村江の戦いで敗れた大和政権が唐新羅の来襲に備えて築いた古代山城である。これまでに 60 を越える建物跡が確認され、平安時代の始めまで政庁及び軍団の駐屯地としての役割を果たしていたと考えられており、この頃の菊池川流域の繁栄を示している。

鞠智城は熊本県で唯一の古代山城であり、平成 16 年には土塁と崖で囲繞される鞠智城の城域 55h a に環境保全区域を加えた 64.8h a が国の指定文化財となった。



(出典：鞠智城パンフレット)



(出典：鞠智城パンフレット)

(6) 平安～室町時代(菊池一族の時代)

平安時代の11世紀前半に、太宰府の有力府官であった藤原蔵規を祖とする菊池氏は、現在の菊池市を本拠とした地方豪族であった。13代武重の時代には、建武の新政府から肥後守に任じられ、15代武光の時代には、南朝方として、懐良親王を隈部山城に迎え入れ、一時期九州を制圧するほどの勢いを誇った。

その後、北朝方に敗れ、南北朝が統一されたものの、南朝方だった17代武朝が肥後守護職に任じられるなど、九州における菊池氏の力は、室町幕府も認めざるを得ないほど大きかったといえる。菊池氏が最も繁栄した時代は、19代持朝、20代為邦、21代重朝の3代、15世紀の前半から後半にかけてである。この菊池一族の繁栄を支えたのは、本拠地の肥沃な菊池平野の農業生産力と、菊池川下流の高瀬津から有明海を経て国際貿易港太宰府につながる水運及び対外貿易による財であった。菊池川の豊富な砂鉄を使った日本刀が貿易の主要な輸出品である。また、内外の新しい文化が菊池川をさかのぼって隈府の町(現菊池市)に集まり、同じ時代、日明貿易で繁栄した守護大名の大内氏の城下町山口が、西の京として賑わったことと並び称されている。



(7) 安土桃山時代 (加藤清正の時代)

戦国の乱世から、織田信長、豊臣秀吉が天下統一を進めていった時代。

豊臣秀吉の家臣であった加藤清正是、治水や利水に力を尽くした名将として知られている。

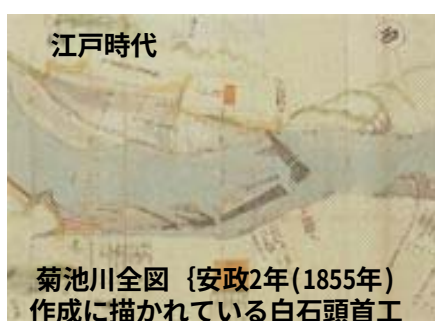
菊池川では、貿易港高瀬を水害から守るため、様々な治水工事を行った。そのうちの「石はね」は、現在も残されている。

また、農業生産の拡大を目指し、堰の建設や干拓が行われた。それらの堰は、現在も改築されて利用されている。



(出典：菊池川全図 安政2年(1955年)より作成)

白石頭首工(菊池川 14k400 付近、玉名市・和水町)



菊池川全図 {安政2年(1855年)
作成に描かれている白石頭首工



昭和初期

昭和初め頃の白石頭首工



昭和初期

昭和26年撮影の白石頭首工



現在

現在の白石頭首工(昭和39年可動堰

(写真右上、(化)出典ふるさと玉名写真集)

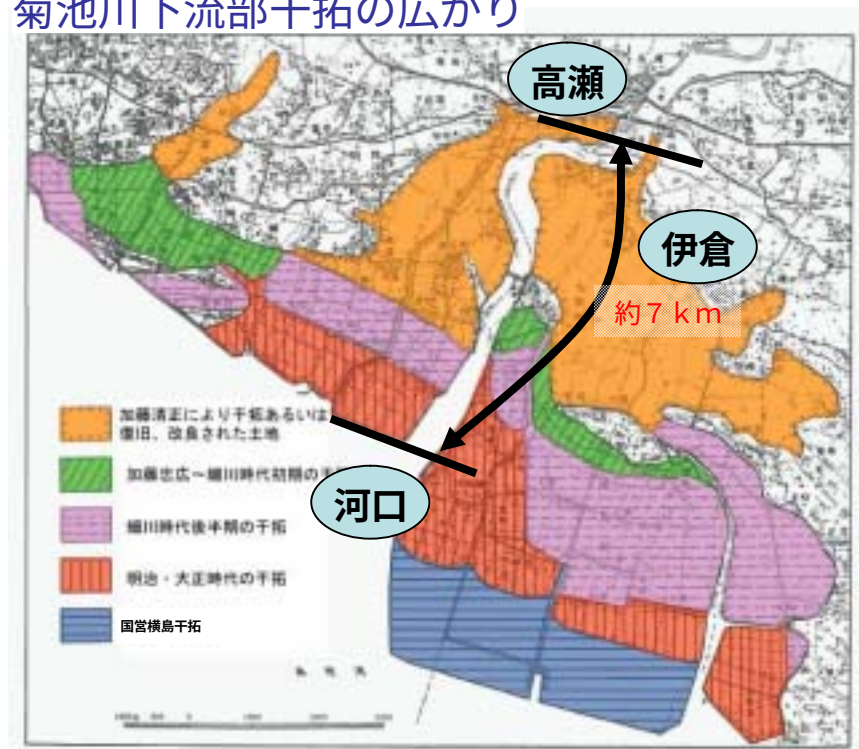
(8) 加藤清正の時代以降

今の熊本県の海岸風景及び農業生産は干拓によるものである。

菊池川流域においても農業生産を増やすために堰の建設や干拓が積極的行われた。

その遺構は現在も河口付近の各地で見られる。

菊池川下流部干拓の広がり



(出典：菊池川五十年史に一部着色、加筆)

(9) 江戸時代

江戸幕府の3代将軍家光の時代に行われた鎖国により、高瀬の役割は、貿易港から米の集積・輸出港へと変わっていった。

菊池川水運による米などの輸送

船着き場の高瀬は、菊池郡、山本郡、山鹿郡、玉名郡の年貢米の集積地として、また肥後米最大の輸出港として発展した。



高瀬の発展

細川氏の時代には、藩の年貢米を入れる御蔵、俵転がしなどの施設が拡充され、藩の御茶屋や商人達の蔵や店が立ち並んで賑わっていた。



水運で繁栄した町・高瀬



俵ころがし



高瀬船着場跡

(写真出典：菊池川流域見聞録、写真右：ふるさと玉名写真集)

(10)明治時代以降

200 年以上続いた江戸幕府が終わり、日本は近代国家としての道を歩み始めた。

水運の衰退

年貢米の廃止により、運ぶべき主要貨物が減少したことや、鉄道の発達により水運は衰退していった。木材のいかだ流しは、昭和15年頃まで続いた。



木材のいかだ流しの様子



(写真：山鹿市井口氏提供)



(出典：熊本県立装飾古墳館図録)

【鍋田横穴古墳】 ー山鹿市ー

古墳時代後期（今から約 1400 年前）に作られた群集墓。鍋田には阿蘇大噴火でできた溶岩（阿蘇凝結熔解岩）が露頭している場所があり、古墳時代の人々はここに横方向の穴を掘って、お墓としていた。



(出典：熊本県立装飾古墳館図録)

【弁慶ヶ穴古墳】 ー山鹿市ー

馬、舟、人物、柩(ひつぎ)等が数多く描かれ、舟葬を現したと思われる装飾古墳。



(出典：熊本県立装飾古墳館図録)

【チブサン古墳】 ー山鹿市ー

国指定史跡に指定され、1,500 年前の古代人が描いたとされる壁画が鮮やかに残っている。



(出典：菊池川河川事務所)

【江田船山古墳】 ー山鹿市ー

全国的に見て最も重要な古代遺跡です。その副葬品などから、この時代に中国大陆や朝鮮半島との交流があったことがわかる。



(出典：熊本県立装飾古墳館図録)

【大坊古墳】 ー玉名市ー

古墳時代後期（6 世紀前半）の前方後円墳で、内部は全長 6m の横穴式石室で羨道・前室・玄室からなり、奥室内棺の内壁に群青色と赤で配した三角形を横 5 段に上下絡み合わせ、6 個の円を描いた装飾が施されている。



(出典：熊本県教育委員会)

【相良のアイラトビカズラ】 ー菊池市ー

マメ科マメ科トビカズラ属に属する熱帯性常緑つる性植物の巨木。日本に生育しているのは当木だけであり、分布北限である。

2-4 自然公園等の指定状況

菊池川流域は、菊池溪谷をはじめ自然環境に恵まれており、1つの国立公園と2つの県立自然公園の指定を受けている。

表 2-8 菊池川流域の自然公園指定状況

種別	公園名	面積 (ha)	流域内関連市町	指定年月日及び内容
国立公園	阿蘇・くじゅう国立公園	54,368	大津町・阿蘇市・菊池市	昭和9年12月4日
県立自然公園	金峰山県立自然公園	8,225	玉東町・植木町	昭和30年4月1日
	小岱山県立自然公園	5,025	玉名市・南関町	昭和30年4月1日

(出典：熊本県環境特性情報データベース（初版）熊本北部熊本県環境生活部環境政策課)

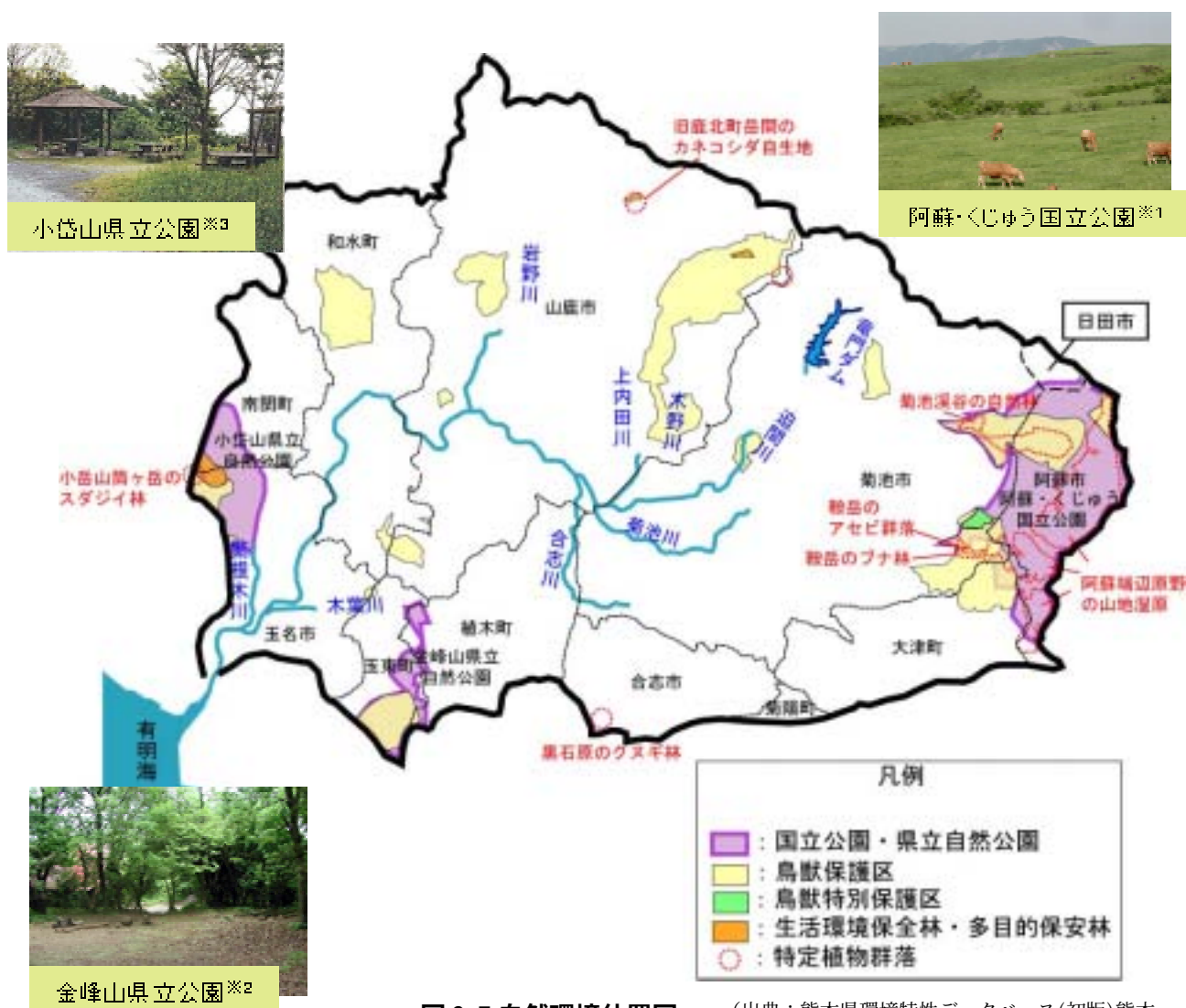


図 2-7 自然環境位置図

(出典：熊本県環境特性データベース(初版)熊本北部熊本県環境生活部環境政策課より作成)

※1 写真出典：環境省HP <http://www.env.go.jp/nature/index.html>

※2 写真出典：HP満遊！くまもと <http://www.manyou-kumamoto.jp/>

※3 写真出典：「史跡といで湯の里 玉名」 熊本県玉名市パンフレット

3. 流域の社会環境

3-1 土地利用

3-1-1 土地利用の現況

流域内の土地利用は、山地等が約 70%、水田や畑地等の農地が約 26%、宅地等市街地が約 4%となっている。

表 3-1 土地利用の現況

土地利用形態	市街地	農地	山地等	総面積
面積 (km ²)	40.2	257.2	698.6	996
[全面積に占める割合]	[4%]	[26%]	[70%]	[100%]

※流域面積から農地（耕地）と市街地（都市地域）の値を引いて山地等の値を算出している。

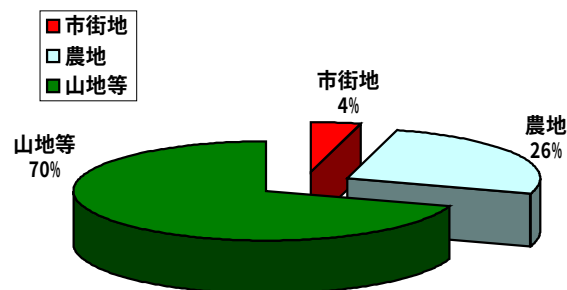


図 3-1 菊池川流域の土地利用面積

（出典：H15 河川現況調査(調査基準年 平成 7 年度末)）

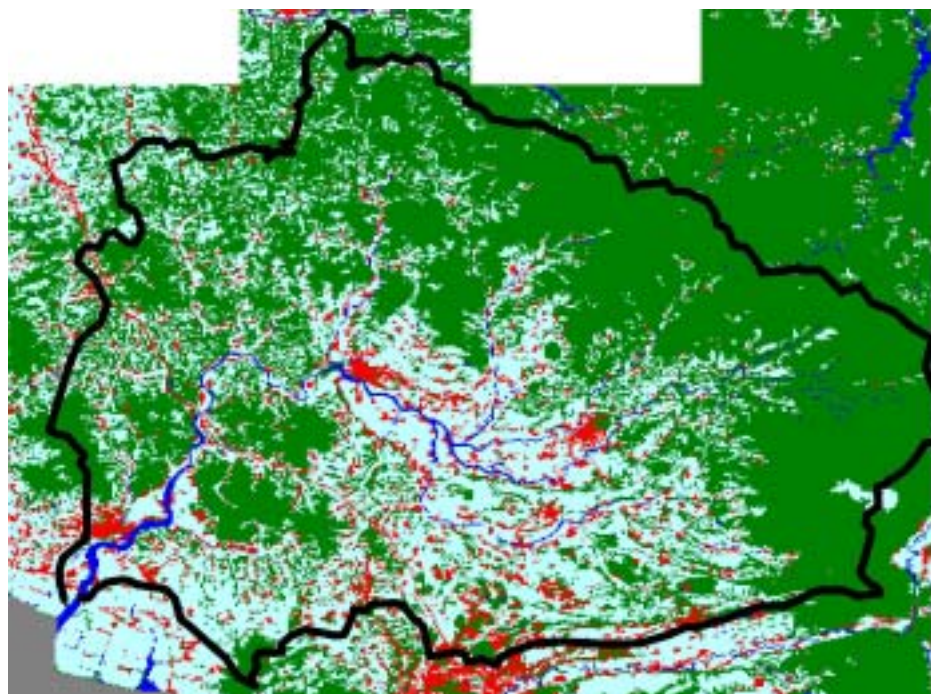


図 3-2 菊池川流域における土地利用図

（出典：国土数値地図 H9 土地利用メッシュデータより作成）

※国土数値地図において、田・その他の農用地を農地（水色）として、建物用地・幹線交通用地を市街地（赤色）として、荒地・その他の用地・河川地及び湖沼・海浜・海水域・ゴルフ場を山地等（緑色）として取り扱う。

3-1-2 干拓の歴史

菊池川下流の玉名平野は、玉名市を頂点とする典型的な三角洲をなし、その前縁に藩政時代より逐次進められてきた干拓地が有明海に向かって広がっている。

近世初頭、加藤清正の水利土木事業によって、初めて菊池川三角洲の乱流が整理され、戦国時代より荒廃していた耕地の復旧、改良がなされ新田の開発が大規模に行われるように至った。河岸築堤による河道の固定によって干潟の形成はより一層促進され、石高増加のための新田政策、広大な干拓をなしうる土木技術とあいまって、干潟の干拓は藩政時代後半期になって急速に進んだ。

明治時代以降、明治 24 年から大正 13 年までの 33 年間にわたって民間資本による干拓が相次ぎ、約 30 年の休止期間を経て、昭和 21 年には国営横島干拓が事業に着手し、昭和 42 年に潮止が完了するに至った。

(出典：『玉名平野の開発と横島干拓』に一部加筆)



(出典：菊池川五十年史に一部着色、加筆)

図 3-3 玉名平野の干拓

3-2 人口

菊池川流域の関係自治体は、菊池市や山鹿市をはじめ 6 市 6 町から成り、平成 7 年現在で流域内人口は約 21 万人となっている。

表 3-2 人口の推移

年次区分	昭和45年 (人)	昭和50年 (人)	昭和55年 (人)	昭和60年 (人)	平成2年 (人)	平成7年 (人)	平成12年 (人)	平成17年 (人)	人口密度 (人/km ²)
流域内	—	218,343	209,758	214,374	222,939	208,694	—	—	209.5
菊池市	50,211	48,268	49,527	50,831	51,610	52,545	52,636	51,862	189.9
山鹿市	64,029	61,915	62,839	63,234	62,150	60,991	59,491	57,726	203.5
玉名市	69,354	69,893	72,324	74,356	73,319	72,900	73,051	71,851	477.9
熊本県	1,700,229	1,715,273	1,790,277	1,837,747	1,840,326	1,859,793	1,859,344	1,842,233	251.2

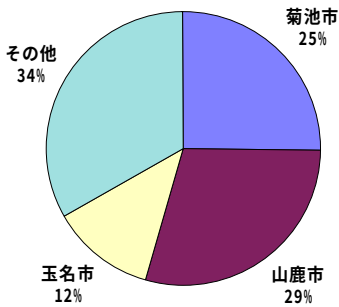
注1) 菊池市の人口は、旧菊池市、七城町、旭志村、泗水町が合併したため国勢調査人口の合計

注2) 山鹿市の人口は、旧山鹿市、菊鹿町、鹿本町、鹿央町、鹿北町が合併したため国勢調査人口の合計

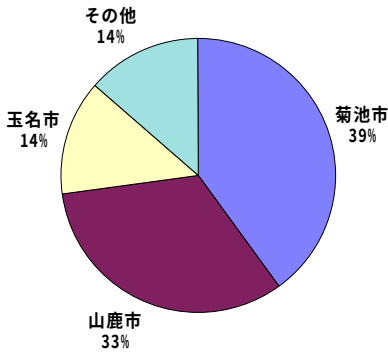
注3) 玉名市の人口は、旧玉名市、岱明町、横島町、天水町が合併したため国勢調査人口の合計

(出典：県及び市の人口は国勢調査、流域内人口は河川現況調査)

市町村別人口構成比



市町村別一般資産額



※流域内及び想定氾濫区域内での市町にて作成。

(出典：平成 7 年河川現況調査)

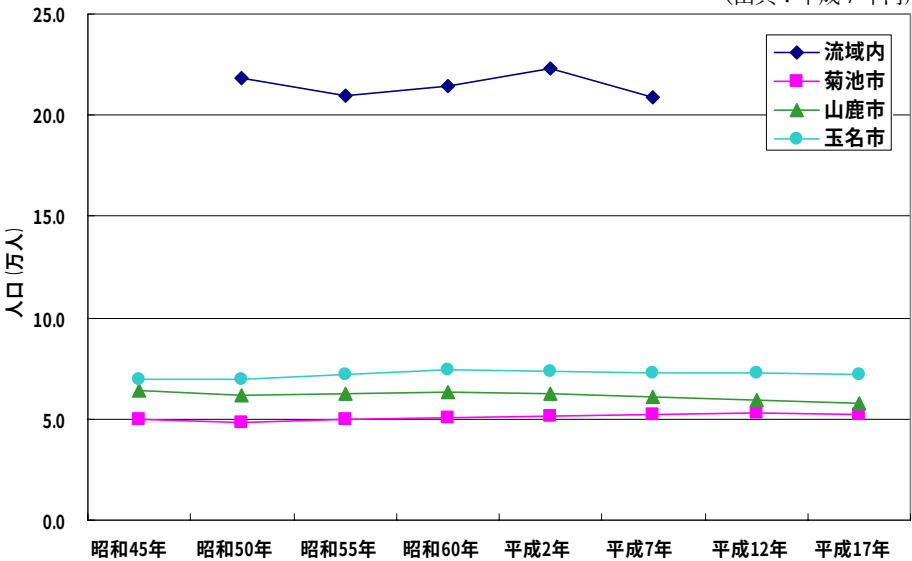


図 3-3 流域内人口と主要都市人口の推移

(出典：河川現況調査)

表 3-3 流域内関連人口の推移

県名	市町名	土地面積 (km ²)	人口（人）								人口密度 (人/km ²)
			昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	
熊本県	菊池市	276.7	50,211	48,268	49,527	50,831	51,610	52,545	52,636	51,862	187.5
	山鹿市	299.7	64,029	61,915	62,839	63,234	62,150	60,991	59,491	57,726	192.6
	玉名市	152.6	69,354	69,893	72,324	74,356	73,319	72,900	73,051	71,851	471.0
	阿蘇市	376.3	35,878	34,607	34,004	33,504	33,018	31,364	30,457	29,636	78.8
	合志市	53.2	19,651	22,664	31,856	38,142	42,014	46,925	49,391	51,647	971.4
	南関町	69.0	14,278	13,086	12,498	12,478	12,247	12,076	11,821	11,203	162.5
	和水町	98.8	15,666	14,426	13,972	13,820	13,484	12,902	12,390	11,900	120.5
	玉東町	24.4	6,403	6,281	6,315	6,180	6,043	6,038	5,781	5,626	230.6
	植木町	65.8	23,563	23,992	27,002	28,679	29,301	30,823	31,235	30,772	467.6
	菊陽町	37.6	10,881	13,138	20,152	22,585	24,154	26,273	28,360	32,434	863.3
	大津町	99.1	18,322	18,086	19,894	22,008	23,744	26,376	28,021	29,107	293.7
大分県	日田市	666.2	64,866	63,969	65,358	65,730	64,695	63,849	62,507	74,165	111.3

注 1) 菊池市は、平成 17 年 3 月 22 日に旧菊池市、七城町、旭志村、泗水町が合併

注 2) 阿蘇市は、平成 17 年 2 月 11 日に一の宮町、阿蘇町、波野村が合併

注 3) 合志市は、平成 18 年 2 月 27 日に合志町、西合志町が合併

注 4) 和水町は、平成 18 年 3 月 1 日に菊水町、三加和町が合併

注 5) 山鹿市は、平成 17 年 1 月 15 日に旧山鹿市、菊鹿町、鹿本町、鹿央町、鹿北町が合併

注 6) 玉名市は、平成 17 年 10 月 3 日に旧玉名市、岱明町、横島町、天水町が合併

注 7) 合併市町の経年人口は、当時の国勢調査人口の合計

(出典：国勢調査)

3-3 産業経済

菊池川下流部に位置する玉名市の河口部は、不知火・有明・大牟田新産業地域に属し、一時活況を呈していたが、現在は特定不況地域に指定され、構造転換の必要が迫られている。また、流域上流南部の市町村はテクノポリスに指定され、先端産業等の企業誘致が進み、今後の発展が大いに期待されている。

流域内における就業者総数は新産業都市に指定されてから増加傾向にあり、昭和 60 年から平成 7 年の産業別の構成で見ると、第一次産業が約 2/3 に減少しているのに対し、第二次産業が約 2.5 割増、第三次産業が約 1.5 割増となっている。また、流域内の製造品出荷額は増加傾向、農業生産額は平成 2 年において減少となったものの、平成 7 年には昭和 60 年を上回る値となっている。特に菊池川流域でのスイカの収穫量は熊本県内の 70% を占め、「植木のスイカ」は全国ブランドとして有名である。

また、流域内には、玉名・山鹿・菊池・植木・平山温泉等が位置し、豊かな観光資源に恵まれている。

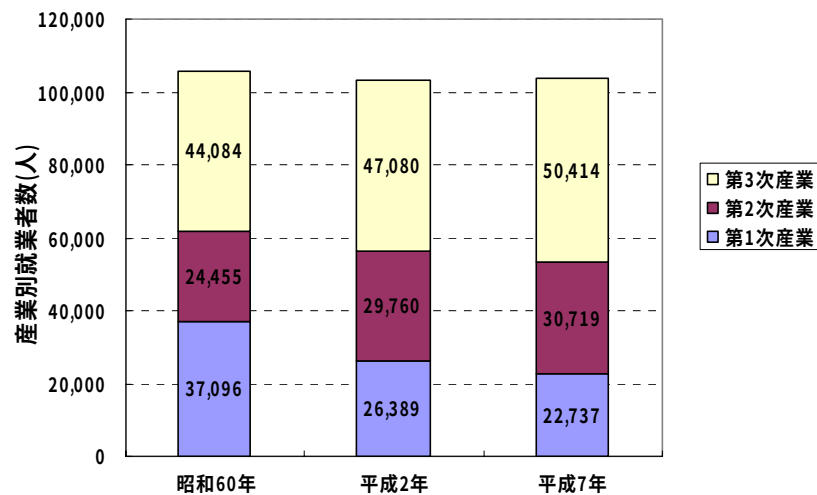
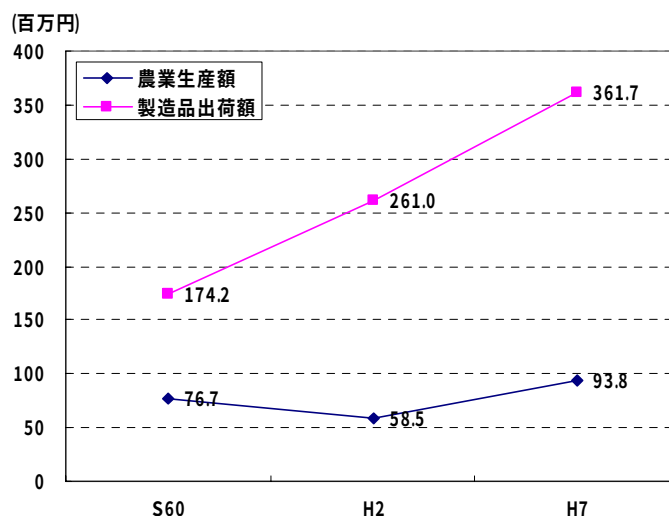


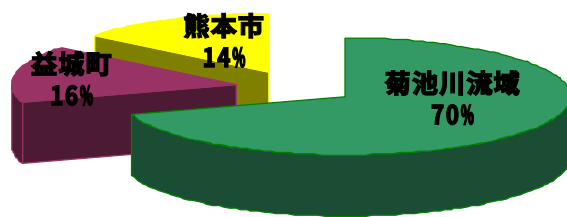
図 3-5 菊池川流域の産業別就業者数の推移



(出典：河川現況調査)

図 3-6 菊池川流域の農業生産額・製造品出荷額の推移

(出典：河川現況調査)



熊本県のｽｲﾅ収穫量（全国第2位）に
おける菊池川流域市町村の占める割合
（出典：野菜生産出荷統計 H17）



山鹿温泉（足湯）
（出典：菊池川河川事務所）

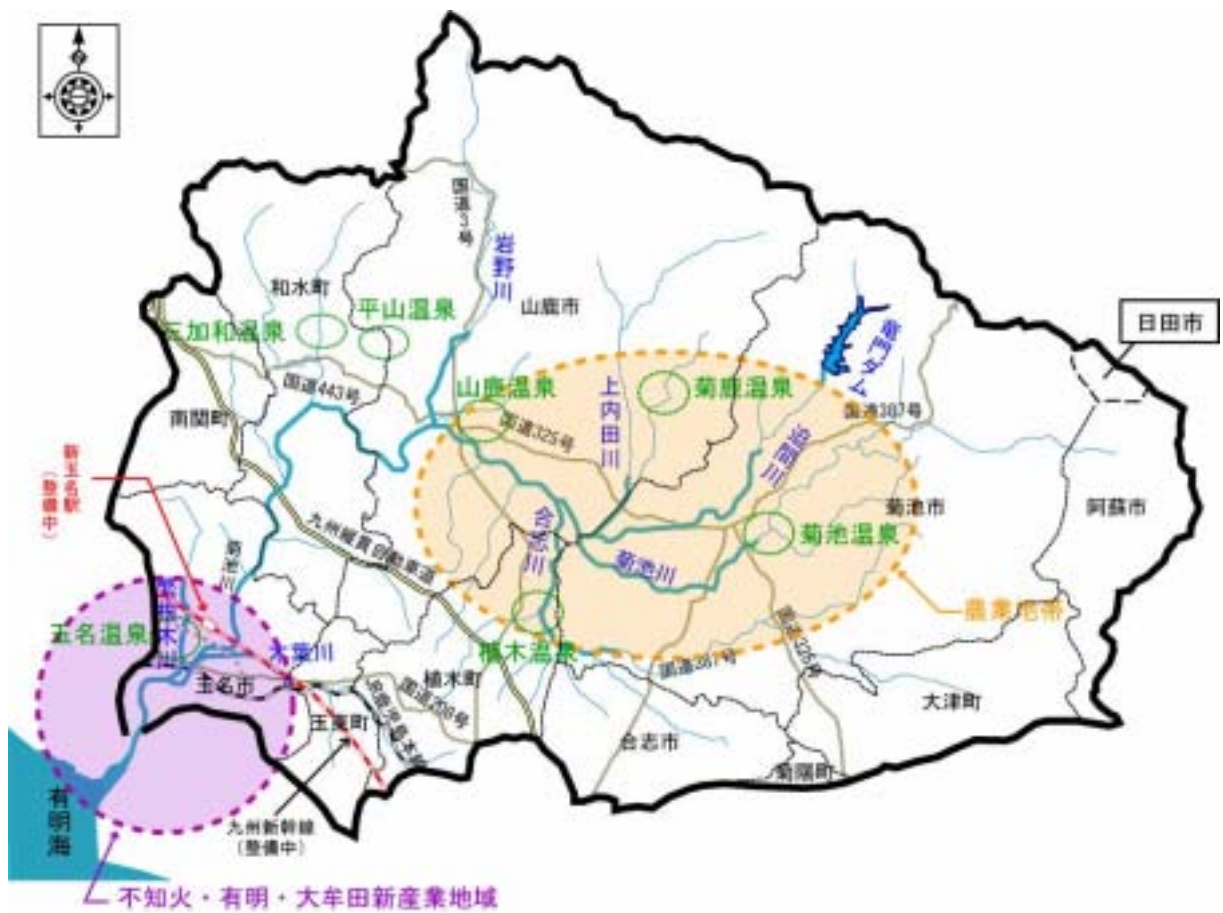


図 3-7 菊池川流域における地域別産業

3-4 交通

菊池川流域内では、九州縦貫自動車道をはじめ、国道 3 号、国道 208 号などの基幹線道路が走り、JR 鹿児島本線が流域の西側を通っている。

また、博多～鹿児島中央間を結ぶ九州新幹線が現在整備中であり、菊池川流域内の玉名市に新玉名駅（仮称）が新設予定である。

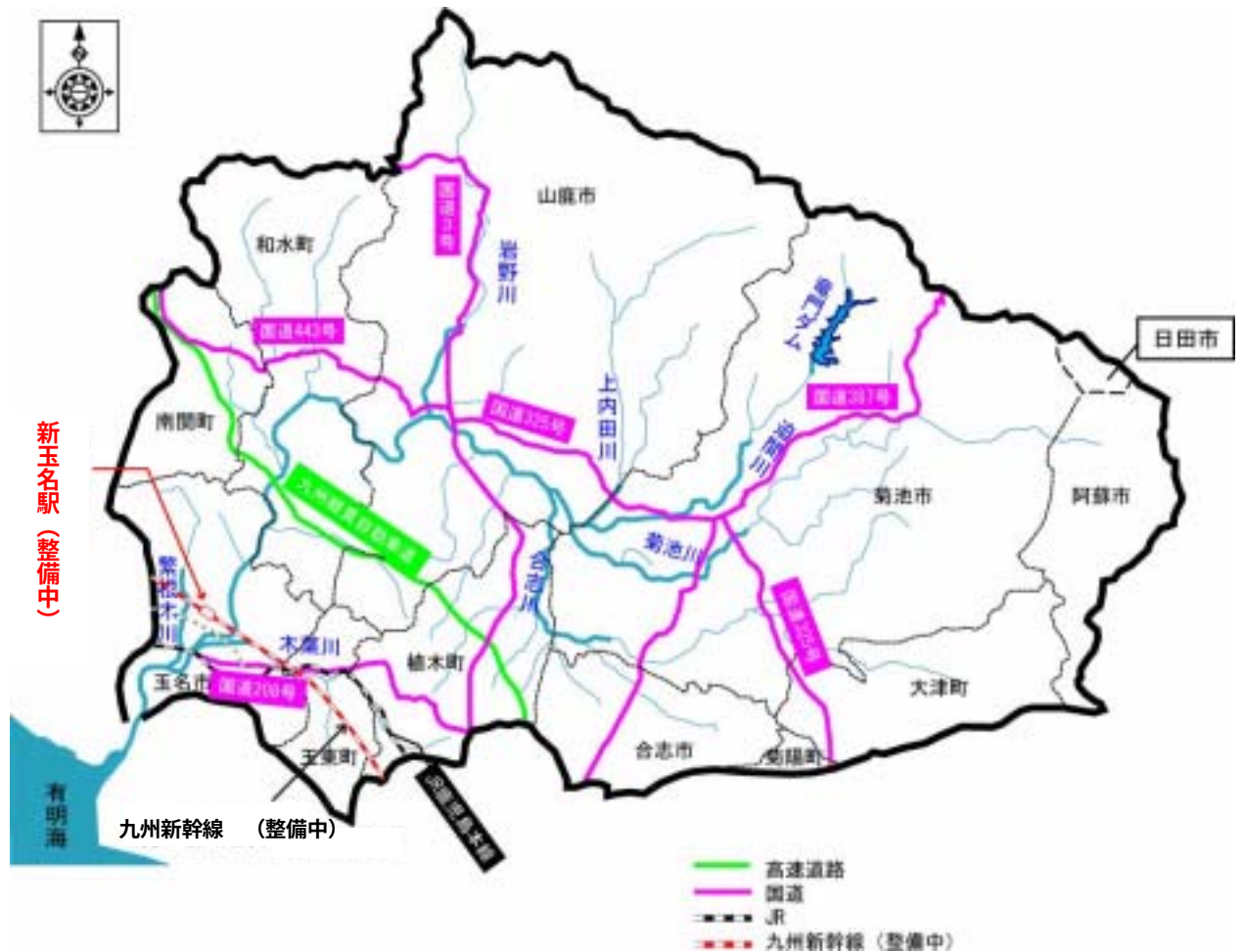


図 3-9 交通網図